

乳幼児期の手話習得支援の取組み事例～「にじっこ」の視察結果について

事業運営主体等	<ul style="list-style-type: none"> ・（社福）京都聴覚言語障害者福祉協会 京都社会福祉会館内（京都市上京区）
事業概要・特長	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市聴覚言語障害センターの京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」のボランティア的な自主事業（有料） ・聴覚に障がいのある乳幼児・就学前児童、それらの保護者 ・第2・第4土曜日に実施 ・手話（ベビーサイン、身振り、指文字等含む）のほか、日本語（音声言語）も使用して、子ども・保護者に接している ・手遊び（歌も交えて）、絵本の読み聞かせのほか、聴覚に障がいのある若者の話（体験談）を保護者が聞き、相談できる場などを展開 ・スタッフは、聴覚障がい者（手話が主な言語）が中心 ・事業規則・要綱、カリキュラム等は、特になし ・利用者（子ども・保護者）とスタッフの関係が「友だち」のようで、子ども・保護者・スタッフが非常に楽しそうな雰囲気が印象的 ・視察した府職員は、2歳の子どもから「ありがとう。」と手話で話しかけられ、言語の習得度合を確認（感動した）
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年に東京の聴覚支援学校の教師を招き、「早期教育の必要性」について、議論されたことがきっかけで事業開始 ・民間の財団からの単年度助成（今年度は30万円）を得て、運営。